



雨がザーザー降りだったのに、めっちゃめちゃ多くの方が外に出て、しゃべっていたり、クルマを見ていたりしていた。それが一番鮮明に印象に残っています。普通、雨のイベントって全然なんだけど、VIPスタイルミーティングは凄く盛り上がりあって、ホンマにビビりました。来年は晴れたらいいですね。もう雨は嫌です(笑)。

「三宅はサボる」の巻



Kブレイクは受付、ブレンとイデアルは搬入を担当。大雨の中、前日、そして、当日の深夜から夕方までお手伝い。そんな中、サボるんですよ、カーセvensの三宅は(笑)。「三宅、寝ました、どうぞ」って無線で報告すると、「はい、今からそっちに行きます、どうぞ」って、ボスが鉄拳を食らわしに来るのがオモロかったなあ(笑)。ああいう過酷な現場には三宅みたいなキャラは必要だなんて思いました(笑)。

今月号は2台の投稿写真もご紹介。「おもしろごはん」では引き続き、みんなが送ってくれた写真もトンドン紹介していきますので、カッコイイ写真が撮影できたら、ぜひ見せてください。

まずは、和風シンプル仕様でキメた齋藤クンの20セルシオ。ボディカラーは黒で、フロントはヴァルドで、ホイールはケーニッヒを履かせています。これ、普通にカッコイイ。この組み合わせの20セルシオは、当時、イベントにはそんなにいなかったんですけど、普段乗りを楽しんでいるオーナーたちの間では、結構多かったですよ。

ちなみに、エアロとかフェンダーの加工は、ほぼ自作で仕上げたそう。ケーニッヒも、剥離剤で塗装を剥がして、自分の手でポリッシュ仕様にしたんですって。凄いなあ。こ



山形県 / 齋藤 幸太 (32歳)
黒・革・サンルーフのセダンに乗りたくて選んだのが、この20セルシオ。付き合いは今年で10年目。Fはヴァルド、S&Rはエムゲイン。ホイールはケーニッヒの18インチ。自慢箇所はいっぱいあるが、特に欲しいのはツライチ具合。足まわりはチャクリキダンパーで、Tディメンどシルクロードのアームも駆使して、シビアにセッティングした。

今月号からデザインを一新。タイトルもひらがなになって、かわいくなりましたね(笑)。VIPスタイルは隔月になったんで、みんなと会えるのは2ヶ月に一回。ちょっと寂しいですが、これからも末永くよろしくお願いします。

まずは、10月22日に開催されたVIPスタイルミーティングの話から。みんな、行きましたか？ 台風の中、なんと327台もエントリーがあったんですよ。このMTは馴染みのメーカーさんたちがバックアップしたんですけど、もちろん、Kブレイクもお手伝いさせて頂きました。正直、ずっとバタバタでMTを純粋に楽しむことはできなかったけど、最初から最後まで携われたんで、達成感半端じゃなかったです。

来年もやりましょうね！ 来年は一回と言わず、西と東で2回とか、

そのぐらいやってもいいんじゃないかなって思っています。

このMTではブリス出展社のみんながアワードを決めたんですけど、僕が投票した2台もアワードに輝きました。それが近江クンの200クラウンと山本クンの20セルシオ。この200クラウンを選んだ理由は、ずばり、新しい風を感じたから。今までのスタンダード的なイジリじゃないところに惹かれました。

チームはGTマシンってことなんですけど、僕らがやっていた頃のGT仕様とは全然違う。レクサスの雰囲気と違和感なく取り入れていて、上手いことしているなって感心。あと、プリスターもいんですよ。ドシツとした感じ。前後バンパーとの繋がりもキレイだし。

このクルマ全体の雰囲気っていうのは、レクサス世代の若い子たちだ

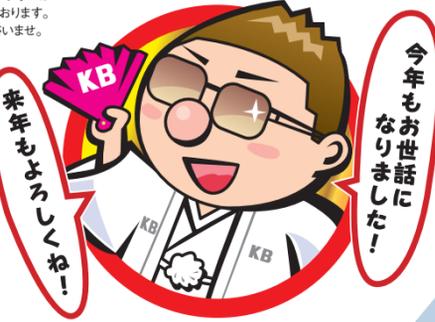
めっちゃ楽しかったぞ！ VIPスタイルミーティング



広島県 / 近江 真吾 (24歳) 兵庫県 / 山本 博嗣 (29歳)

K.BREAK 大林 一樹の

おおもり
ごはん



今年もお世話になりました！
来年もよろしくね！

山本クンの20セルシオは、シンプル・激低・ワイド&ローの3つがテーマ。エアロはオーストリアで統一。ボディカラーはクリスタルガラスのオリジナルレッド。足まわりはTディメンど車高調で、ホイールはSSRのMS1の18インチを選択。そして、近江クンの200クラウンは巻頭特集で超詳しく紹介しております。ぜひ、P22をご覧ください。

からこそって感じがするんです。これからも、そんな新しい風を吹かせるようなドレスアップを続けていって欲しいなって思います。

そして、もう一台の20セルシオは、完全に自分の好みで選びました。フェンダーを出して、車高をベタベタ落として、タイヤとホイールのバランスもカッコイイ。ワイド&ローを地味でいっているのがいい。足まわりは車高調で、車高はめっちゃ低いんですけど、「ハンドル全切りできて、ストロークしても当たらないし、フェンダーを気にせず運転できるのが自慢です」って。ハンドル全切りって、僕の中では凄く大きくて、できないって聞くとガツガツしちゃう。見えない部分もキチツとして欲しいなって。

この20系はそういう部分もしっかりしてて、いいなって思いました。



K.BREAK Kazuki Ohbayashi
大林 一樹
[VSMTで出版社のお偉いさんに、「凄く和気あいあい、VIPのイメージが変わった」って言われたのが嬉しかったです。]

の仕様には洗いやポリッシュが大正解ですね。凄く似合ってます。

「今後は大きな予定はありませんが、まだまだ乗る予定なんで、壊れないようにしていきます」って。その心掛けも◎。僕も古いクルマに乗っているんですけど、年式がいつているクルマは、キレイにしてナンボ。今のピカピカを維持しつつ、これからはセルシオを大切にしてください。

ラストは山崎クンの51フーガ。「いつも楽しみにしています。大林さんの地元の滋賀でフーガに乗っています。50フーガのマクロス仕様は忘れられませんが、次は51フーガをマクロス仕様にしてほしい。ちなみに、僕はシエリル派です(笑)。

昔やったマクロス仕様、覚えてくれているんですね。嬉しいなあ。あの時はランカを大きくしましたけど、実は僕もシエリル派です(笑)。

そして、この51フーガはVIPスタイルミーティングに来て、しかもアワードに輝いていたんで知っています。そんな凄いオーナーが、こんなにはしゃいでいるって聞いて、その地道な感じがいいですね。ドレスアップのテーマはスポーティ。誰も被らない仕様を目指しているそう。必見はグリルレスにして、ボンネットからラインを伸ばしたロングノーズですね。フーガって、国産車離れした雰囲気があるんで、こういうユーロっぽい感じ、もっとういって、マセラティっぽい感じのイジリはとっても似合っていると思いますよ。

次はフェンダーに挑戦するそう。純正のフェンダーラインが艶めかしい感じなんで、作るのとっても難しいんですけど、完成を楽しみにしています。頑張ってくださいね！

投稿募集中

「僕もKブレイクの大林さんに愛車を評価して欲しい！」と思った方は、ぜひ編集部まで写真とアンケートを郵送してください。大林さんが愛情をたっぷり添えて、キミのクルマを全国の人々に紹介してくれますよ。



滋賀県 / 山崎 修司 (32歳)



日本車離れしたボディラインが気に入って購入。51フーガは今年で4年目。エアロはエムゲインの純VIPGTがベース。ウイングは326パワーを選んだ。ホイールはコンケープが気に入ったワークエモーションCR2Pの20インチ。足まわりはカズサスエアサスで、當地仕様を実現させた。